

もの言う牧師のエッセー 第44話 ①「50万人の大観衆」

オリンピック小話

史上最多の38個のメダルを獲得したのを記念し、日本オリンピック委員会（JOC）は8月20日、史上初めてとなる凱旋パレードを東京・銀座で行い、50万人の人々が押し寄せ熱狂したのには本当に驚かされた。と言うのは、開催日時が“仕事始め”となる月曜日のしかも午前11時からであることや、イベントの実行自体が4日前の16日に急遽決定されたものだったからである。当初メディアも10万人程度の人出を予想していたらしい。

パレードは金メダリスト7人を含む71人のメダリストらが7代の車両に分乗して、銀座中央通り（銀座通り口から8丁目まで1km）で20分間だけ行われたが、地元の人からも「最大の人手」と言わしめるほどとなった。巨人軍優勝パレードや箱根駅伝にも利用される同地域であるにもかかわらずである。

おかげで老舗あんパンの「銀座木村屋」では限定セットが、僅か30分で完売。夕方からオープンビアホールも午前10時に前倒し営業で長蛇の列が出来喜ぶ一方、沿道にあふれかえった人々で「店のドアを開けることが出来なかった」商店が続出、閑古鳥となった店も多くあった。さらに驚くべきは、“徹夜組”を含む、休暇を取って来た会社員が多くいたことである。これらの熱狂ぶりを見て、思わず2000年前の「イエスのエルサレム入城」を思い出した。

「そして、前を行く者も、あとに従う者も、叫んでいた。『ホサナ！祝福あれ！主の御名によって来られる方に！』」

マルコの福音書 11章9節。

“ホサナ”とは救いのことである。実は当時のローマの圧政下にあるエルサレムと、不景気や震災で鬱屈した現在の日本は似ている。いつの時代も人々は救いを求めて“熱狂”する。しかし本当の救いは死から復活した救い主キリストにしかない。聖書預言によれば、“最後”の日に「神の凱旋パレード」がある。神に向かって叫ぼう。

2012-9-6

